



写真提供／(公財)野口英世記念会

横浜市 長浜ホール「野口英世博士への手紙コンテスト」原稿用紙

学校名

並木中央小

6

年

2

組

名前

村上亜鼓

野口さん、私は野口さんのことを知り、強いあこがれを抱きました。私も野口さんみたいな人になりたいです。そう思ったのは、野口さんが目標に向かって努力していたからです。私にも夢がありますが、時々その夢のため頑張ることを投げ出してしまいます。でも、野口さんは苦しくても必死に努力していました。例えば、アメリカに行って細菌学に取り組んだことです。みんなに貧乏人だと言われ、大火傷を負った左手を笑われてくじけても、諦めずに一生懸命学んでいました。そのことがすごいと思いました。また、黄熱病はとても危険な病気であるにも関わらずアフリカへ渡り、命をかけて人々のために研究した野口さんを、本当に尊敬します。

野口さんは、どんなに辛くても、努力すれば成長できるのだと教えてくれました。私はそのことを大切にして、目標に向かって努力をしていきたいです。また、人々の役に立てるように、前を向いて頑張ります。